

パラソルカットによるクリの樹形改造

球磨農業研究指導所 特産部(現、農研センター球磨農業研究所)

研究のねらい

樹高が高くなり過ぎたクリ樹の樹勢回復と若返りを図るために、これまでは、全面カットバックや心抜き剪定が行われてきたが、全面カットバックは、収量の落ち込みがひどく、心抜き剪定は、台風弱いなどの欠点がある。これを改善するために、

パラソルカット、中央部カットバック、全面カットバック(慣行法)について、築波 16 年生を供試して試験を行った。

研究の成果

1. パラソルカットの 1 樹当たり収量は、残した低い枝とパラソル部に結実するため初年目は 37kg、3 年間の累計は 131kg と、最も多かった。また、樹冠面積 1 m²当たりの収量もパラソルカットが 3 ヶ年とも 3 区中最大であった。
2. 心抜き剪定に比べ、パラソルカットでは樹冠を構成する主枝・亜主枝の台風による枝折れは少なかった。
3. 実施上の留意事項として、パラソルカットは、低い枝(4 m 以下で生産をあげる枝)が健全なうちに実施することが前提条件である。また、初年目の処理でパラソル部の枝を多く残し過ぎない。残存主枝・亜主枝の密生部は側枝単位に間引き、間伸びした主枝・亜主枝は短縮剪定を行い、果実肥大・不定芽の発生を促がし、幹の日焼けや台風被害を少なくする。

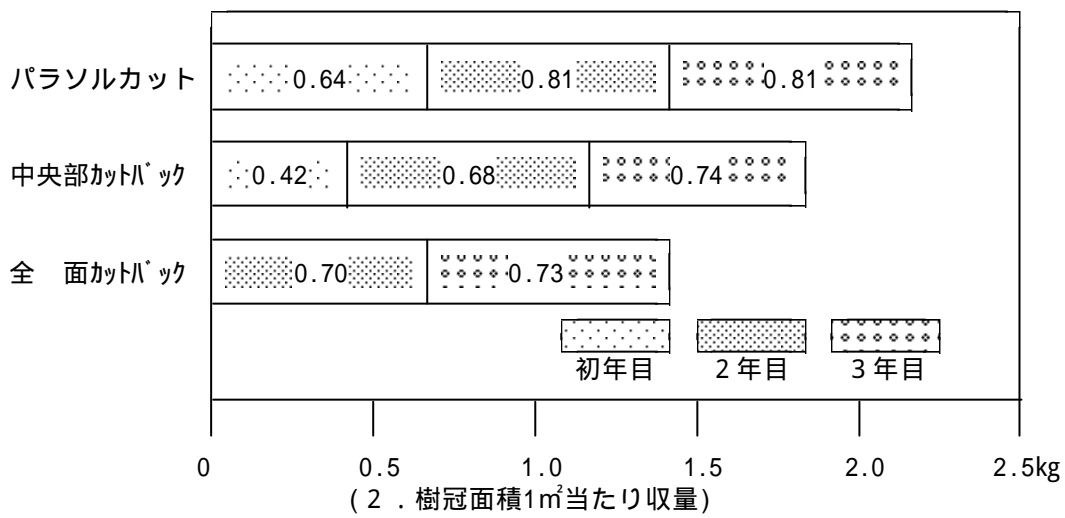
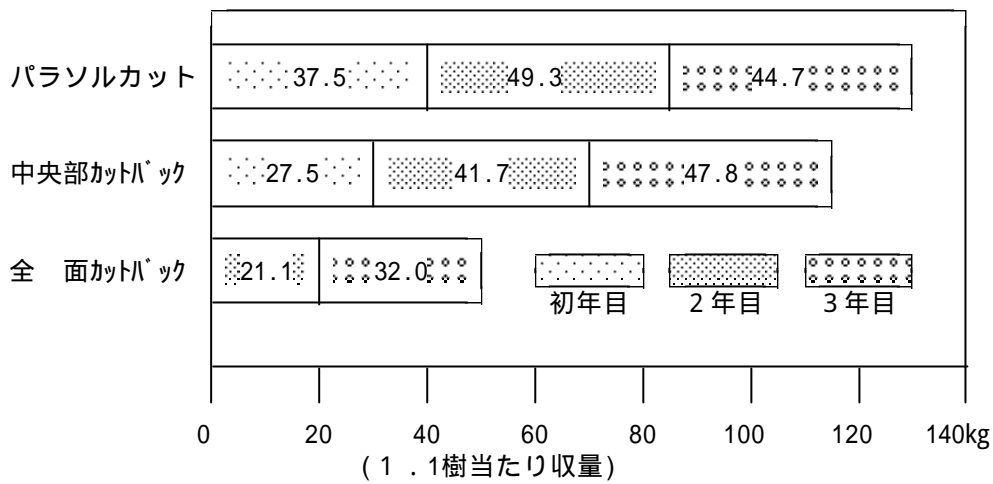


図1～2 栗のカットバックと収量



図3 樹形改造の手順